

春彼岸会特別企画 いざというときどうするか②

葬式と生前の意志 その(1)

二十七日の昼席は、「葬式と生前の意志」と題して、プロの役者さん、素人とりまぜた「にわか劇団報恩舎」の葬式劇を見ました(登場人物・団体は全てフィクションです)。劇は、病院での臨終の場面から始まります。

場面①「病院」

葬儀会場と葬儀社選び

―医師の死亡宣告。

「八時三十六分、ご臨終です。」

「お父さん！」

―父を呼ぶ妻と息子。後ろから看護師が出てきて、

「ただいまから、処置をさせていただきます。約一時間ほどかかりますのでしばらくお待ち下さい。葬儀社は当病院指定業者でよろしいですか？」と尋ねる。

妻「もう決めているところがあるから」と断る。

―心配そうに気の強そうな嫁が登場し、「ホールですよ、ホール



写真右は妻・海野うる子。病院は、どういう基準で葬儀社を指定紹介しているのでしょうか。表に出せないようなことであれば、「葬儀社一覧」を見せるという方法もありますよね。

でしましよ」と迫る。

「夫の遺言だから」と口ごもる義母に、嫁は、

「お寺ですのなんかはやらない」「ホールならお金をだせば何でもやってくれる」「上げ膳据え膳」と説得しようとする。母は、

「別の葬儀社のチラシには、お寺でやっても、上げ善据え膳などホール同様のサービスをしてくれると書いてあった」と反論。嫁も負けずに「椅子があるか」「何人入るのか」「帳場はどうするのか」「互助会の掛け金はどうなるか」「お寺の席料は高いのではないのか」と色々気になっていることを言い、「送迎

バスは夕ダらしい」などと言う。―そこへ黒子が登場。

「あの、小さな親切大きなお世話葬儀店でございます。掛け金についてご説明申し上げます…」



この黒子さんは、決してさっきの看護師さんではありません。右の二人は息子と息子の妻。

と、

①掛け金を解約すると手数料約一割を引かれることになるが、「小さな親切：葬儀店」で負担してくれる。

②お寺は高いという噂はウソ。ホールは会場使用料無料と書いてあっても遺族控え室・法要室は有料で、総額では結局お寺の方がずいぶん安い。

など、すべて説明してくれ、疑問を解決してくれる。

―優柔不断だった夫が口を開く。「お母ちゃん、お寺でしようやあ。考えてみたら、法事とか葬式とかは、仏さまのことじゃから、お寺するのが一番なんかもしれんと思う。」それを聞いて母も、



「あなたは黙っとりんさい！」妻にやり込められる夫(写真右)。

「特にお父さんは、仏さまを大事にする人じゃった。ことあるごとに私に、一緒に仏さんに手を合わそうや、お寺に参ってお聴聞しようや言うところじゃった。結局ひとつも言うことを聞かずに参らんかったんじゃけど…。もう一緒に参れんけど、私ら

がお寺でお葬式をしてお寺へ参つたら、喜んでくれるかも…。」と涙ぐむ。

—そのひと言で、とうとう嫁も折れ、お寺に決定。

—連絡（お寺と葬儀社など）—

—妻がお寺に電話。

「もしもし、西教寺さんですか、海野と申しますが、さきほど夫が亡くなりましたので、お寺のほうで通夜と葬儀をお願いしたいのですが」と、

①夫が亡くなったこと

②場所の確認（お寺が空いているか）

③臨終勤行（枕経）、通夜、葬儀の場所と日時を相談。

—続いて葬儀社に電話。

葬「今どちらからおかけですか」

妻「やぶた病院です」

葬「やぶた病院ですね。なくなられた方のお名前を

教えてください。」

妻「海野鯛三です」

葬「お電話をかけていただいている方のお名前と亡

くなられた方の関係を教えてください。」

妻「海野うろ子といます。妻です」

葬「ご遺体はどちらに連れて帰られますか？」

妻「西教寺蔵本通支坊のほうへ連れて帰ります。」

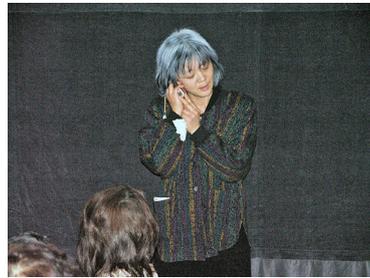
葬「西教寺蔵本通支坊ですね。お寺の方へはもう連絡されましたか？」

妻「はい、もうしました。」

葬「わかりました。では、あとのぐらいでお迎えにいかせていただければいいか、看護師さんに聞いてみていただけますか？」—（略）—

妻「あと四十分くらいだそうです。」

葬「では、今から準備をいたしまして、四十分以内にやぶた病院へお伺いいたします。あ、それから、



ご連絡をさせていただければならないことがあるかもしれませんので、ご家族の方で携帯電話をお持ちでしたら、念のため番号を教えてください。」（以下略）

《編集者解説》

ご臨終そして、臨終勤行（枕経）、通夜・葬儀の場所を決め、葬儀社を決める場面です。僧侶の目から見て思うのは、仏式葬儀のポイントは、「葬儀社選び」と「葬儀会場選び」だと思います（「僧侶選び」はひとまず横へ置いておきます・笑）。というのも、葬儀社によって料金が全然違うのです。規模によっても違

いますが平均五十万円以下ですむ葬儀社もあれば二、三百万円かかるところもあるのです。また会場も、お寺とする葬儀、ホールとする葬儀、自宅葬、自治会館と、葬儀を行った感じが全然違います。利便性ならホール、宗教的雰囲気ならお寺でしょうし、思い出深い住み慣れた場所ということなら自宅や自治会館でしょう。それぞれ一長一短があり、また、家族の事情、人間関係、社会的地位、経済的なもの、宗教観の違い等、色々事情がありますので、一概に押しつけるつもりはありません。何を優先させるかを決め、総合的に判断するのがよいと思います。

劇では、亡くなった方の宗教を大事にして、お寺の葬式を希望されましたが、家族はお寺でするにあたっては色々気になることがありました。使い勝手（椅子席か）、サービス（上げ膳据え膳か）、会場使用料、掛け金等々。ホールにした場合は自動的に葬儀社も決まってしまうのでどうしようもありませんが、お寺でする場合は、葬儀社によって料金面、サービス面が違ってきます。詳細はお寺までご相談下さい。

また連絡は、お寺、葬儀社、そして、早く連絡しなければならぬ人を除いては、場所と日時が正確に決まってから（僧侶・会場・火葬場の調整が必要）連絡を入れます。自治会に協力を依頼する場合は、忘れずに連絡を入れます。（つづく）